



正法寺新聞



人は一生の間に
多くの言葉を
残しますが
自らが死んで
あなたもこうして
必ず死ぬ身でありますよ
という
無言の語りかけ以上に
重たい言葉は
残せないのです

藤代聡磨

2017. 3.

第 10 号

正法寺発行

紙上体験

正法寺

③花まつり

花まつりを
知っていますか？



4月8日は「花まつり」といって、仏教徒が
お釈迦様の誕生を祝う喜ばしい日です。

どんなことが行われる？

花御堂(はなみどう)の中央に甘茶をたてた水盤を設置し、お釈迦様がお生まれになったお姿(誕生仏)を安置します。参拝者は頭上からひしゃくで甘茶をかけて誕生をお祝いします。

なぜ甘茶をかける？

お釈迦様誕生の時、甘い香りの雨が降りそそいだとの伝説によります。甘茶をおかけすることを灌仏と言います。

正法寺は入学シーズンの4月をさけ5月に開催

今年は5月14日(日)10時から

お寺の行事へあまり来られたことがない方も、
紙上で正法寺を体験できるコーナーです！

正法寺では毎年5月に、女性部「洗心会」主催の花まつりを開催しています。正法寺の花まつりは、「釈尊降誕法要」の他、「初参り式」「子ども花まつり」を同時に開催する、世代を超えた皆さんが集う楽しいお祭りです。今回このコーナーでは、「花まつり」って？甘茶って？という疑問など、正法寺花まつりの内容について詳しくお届けします。じっくりと読まれて、今年の花まつりには、ぜひご家族そろってお越し下さい。



ゴール

スタート
はなまつり体験



前日と当日早朝から
準備をします



昼食からは「子ども花まつり」。
ゲーム・最後は行進！



初参り式

まずは「釈尊降誕法要」
のおつとめ



みんなで
いただきます！



花まつりでは、
「初参り式」も行います



ご家庭に生まれた赤ちゃんが、初めてお寺にお参りする行事を「初参り式」(はつまいり)と言います。尊いご縁によって恵まれた新しい「いのち」を阿弥陀如来様の前で、ご家族またご縁のある方々そろってお祝いし、感謝する式です。まだ受式されていない幼児・児童のお子様も受式可能です。

【式の内容】初参り式は予約が必要です
みんなでおつとめ→お経いただきせ

→灌仏(甘茶かけ)→仏様のお話→記念撮影

今から約2500年前、ヒマラヤの山のふもと、
ルンビニーの園で王子様が誕生されました。
王子様は誕生後、七歩あゆまれ、天と地を指
さされ「天上天下唯我独尊(てんじょうてんげ
ゆいがどくそん)天にも地にもわれひとり尊し」
と宣言されました。この王子様は、世の人々
を救うお釈迦様となりました。

今年の開催は、5月14日(日)10時から

子ども花まつり/初参り式は、予約が必要です。
詳しい申込書は後ほど配布しますが、早めに
予約をされたい方は、お電話かホームページ
のお問い合わせよりご連絡下さい。

正法寺 ☎ 52-2247

HPアドレス：<http://omura-shoboji.jp/>

せんしんかい 洗心会々報

第十一号

長崎教区第3組若婦人研修会
正法寺で開催! (平成29年2月5日)



正法寺さんに初めて
座談会も皆さま思い
お話が聞けました。



時代の流れでしょうか、それぞれの地域の決まり事が崩れていくと言って寂しいと仰っていました。

座談会初めての参加でしたが、とても楽しい時間でした。初めての顔合わせとは思えないくらい親しみを感じました。

2月5日(日)、正法寺にて長崎教区第3組若婦人研修会が行われました。第3組とは、佐世保・波佐見・川棚・大村地区の真宗大谷派14ヶ寺院の集まりです。この日はその第3組地区より約80名(正法寺からは11名)の参加がありました。ご講師には西海市光明寺の武宮學先生にお越しいただき、『伝わってきたもの』をテーマにお話いただきました。お話しに続いて班ごとに昼食を取り、そのまま座談会、その後は武宮先生の指導で仏教讃歌の練習、最後は最初の講義で終了しました。初めての参加者も多かったようです。来年は正法寺開催ではないかもしれませんが、まだ参加したことのない方は是非ご参加下さい!

洗心会総会内容：
 <午前>平成28年洗心会々員物故者追悼法要/平成28年決算報告・次年予算審議/昼食(精進カレー)
 <午後>紙芝居鑑賞/「本山還座式」ビデオ鑑賞

洗心会総会・物故者追悼法要
 が行われました(平成29年1月28日)



| | | |
|-----------------|-------------------|------------|
| 真宗聖典(小) …三千元 | 真宗聖典(大) …三千五百円 | 肩衣 …二千元 |
|-----------------|-------------------|------------|

今回の総会では、上記の二つを皆さんにご紹介しました。『真宗聖典』は法要や研修でのご法話聴聞の際、手元にあるとより丁寧にお話を聴くことができます。肩衣は、仏法に向き合う身を整えるものです。ぜひお揃え下さい。お寺で販売しています。

入会お待ちしております!!

洗心会は随時会員になることが可能です。お寺に右記のパンフレットをご用意していますので、まずは手に取ってご覧下さい。



今年2月までに以下の方が新しく会員になられました。どうぞよろしくお願ひ致します。
 ●増田智佳子(杭出津)畑野敏子(上諏訪)南俊子(宮小路)坂田紀三枝(久原)田添二葉(久原)小島幸子(協和町)右山タケ(本町)石丸榮子(原口)
 (順不同敬称略)

今年も恒例の総会が開催されました。(参加者72名)昨年同様総会の前には旧年中に亡くなられた会員の方の法要も行い、ご遺族の方にも4名お越しいただきました。総会の最後にはお一人ずつ自己紹介を
 お願ひしました。お昼食は役員が用意した精進カレーをいただき、午後は正法寺法務員さんと坊守さんによる紙芝居・本山の還座式(ご本尊の移動)の様子とご法話のビデオを鑑賞して終わりました。(会長 堀出)

坊守の 仏ぶつツ寺日記

【四】

お寺で想う
いろんなこと
語ります!!



これまで10号の新聞を出してきましたが、「お寺」は親族が亡くなつてから関係を持つところ、という印象は

方響いてくるように思います。真宗寺院に

無くなられたでしょうか？そもそもなぜ私がお寺で生きていこうと決意できたかという二十歳の頃に亡くなった父親の言葉があったからです。父は食道癌で亡くなりましたが、死の直前お見舞いに来て下さった方に対し、「お浄土で遇おう」と

は、先人たちが伝えてくれた時代に流されないう言葉がたくさんあります。みなさんは亡くなつて何処へ還つていくのか考えた事がありますか？愛する人たちにどんな言葉を残しますか？そういう問いをもらったり、皆で考えてみたり、お寺はそういう場所でもあります。

一ちよこつと近況一

炊いたご飯をおひつに保存しています。余分な水分を吸ってくれます。



参加して みませんか？

学 習 会



正法寺では、毎月2回（第2土曜日の夜と28日のお昼）学習会を行っています。土曜日夜の学習会は、2部構成。まず1部は、法務員の原田が中心になり、皆さんに毎年お配りしている「法語カレンダー」の法語に触れ、いろいろな意見を出し合いながら深めています。2部は「歎異抄」をテキストに住職の解説をいただきながら、学びの場として取り組んでいます。28日昼の学習会は、皆さんが日頃から使われている赤本（大谷派勤行集）から正

信偈を丁寧に学んでいます。親鸞聖人がどのような思いで残されたお言葉なのか、その思いに我が身を問う学びの場になっています。また参加されたことがない方も、お誘い合わせの上、是非一度ご参加下さい。お待ちしております！
（記事担当/法務員島田）

第2土曜日夜の学習会

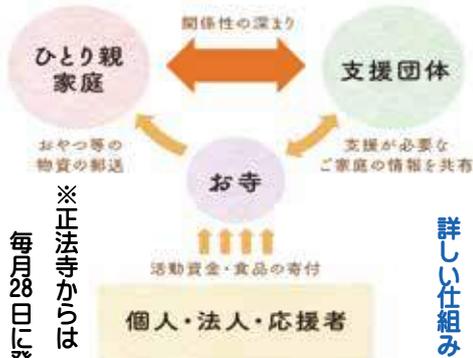
午後7時半から9時

毎月28日昼の学習会

午後1時半から3時

※詳しくはお寺から配布しているご案内をご覧ください。

【ひとり親家庭・支援団体・応援者の関係】



詳しい仕組み

※正法寺からは毎月28日に発送

「おてらおやつクラブ」は、お寺にお供えされるさまざまな「おそなえもの」を、仏さまからの「おさがり」として頂戴し、への貢献を目指します。（ホームページより転載）



正法寺では、おてらおやつクラブより紹介いただいた、長崎フードバンクシステムズさんへ発送し、そこから各家庭に届けられます。

このところメディアでもよく取り上げられている。「おてらおやつクラブ」に正法寺も参加しています！

個人的に寄付されたい場合は、25日～28日の間にお寺へお届け下されば一緒に発送します。賞味期限は2週間以上の余裕があるもの、またおやつ以外のお米やレトルト品、未使用の日用品(タオルや洗剤など)も喜ばれます。

しんしゅうおおたには
正法寺は真宗大谷派の寺院です

| | |
|-------|---|
| 本尊 | あみだによらい 阿弥陀如来 |
| 正依の経典 | 仏説無量寿経（大経） 仏説観無量寿経（観経） 仏説阿弥陀経（小経） |
| 宗祖 | しんらんしょうにん 親鸞聖人 |
| 宗派名 | しんしゅうおおたには 真宗大谷派 |
| 本山 | しんしゅうほんびょう 真宗本廟（東本願寺） |



真宗入門

焼香の作法

記事担当（法務員原田）

仏事で行われている焼香の作法は、宗派によって異なっています。正しい作法について疑問に思われている方も多いようですので、今回は真宗大谷派の焼香の作法についてご紹介します。

（参考資料『真宗の仏事』）



①本尊を仰ぎ見ます。

※この時は合掌はしません。



②焼香卓の端に左手を添え、右手で香をつまみます。

※左手を添えることで所作が綺麗になります。



③香炉に2回入れます。

※香を頂いたりしません。
※香の煙をおおぎません。



④次の方のために

つまんだ香の乱れを整えます。



⑤合掌し、

「南無阿弥陀仏」とお念仏を称えます。



⑥合掌を解き、

頭礼します。



攝取心光常照護 已能雖破無明暗

貧愛瞋憎之雲霧 常覆眞實信心天

譬如日光覆雲霧 雲霧之下明無闇

ここを現代語訳すると、「すべての人をおさめ取って捨てない、という阿彌陀如来の大慈悲心の光は、常に私たちを照らし護っておられます。その光はすでに迷いの根源である闇を破って下さっています。私たちが貪りや怒りの心が、如来よりいただく眞實信心を、雲や霧のように覆い隠しているのです。それは喩えるなら、日光が雲や霧に覆われていても、その下は明るく闇がないようなものです。」という意味になります。阿彌陀如来はあらゆるものを分け隔てなく救おうと誓い願われた仏様です。ですから、あらゆる世界を攝取不捨の心光で照らしてください。攝取というのには「おさめ取る」ということです。どんな人も必ず救おうという慈悲の心でお浄土に迎えられるということ。そして不捨とは、「阿彌陀如来はどんな人も見捨てない」ということです。そんな阿彌陀如来の慈悲の光は、常に私たちを護り

照らしてください。ですので、今すでに私たちはその光に包まれているわけです。しかしながら、われわれはその事に気づくことが出来ません。それは私たちが煩惱に迷った生活を送っているからです。仏教では人間の持つ根本的な三つの煩惱を三毒と呼びます。貪愛（貪欲）・瞋憎（瞋恚）・無明（愚癡）の三つです。貪愛は貪欲ともいい、好ましい対象に対する強い執着の心で、むさぼり、欲望のことです。また瞋憎は瞋恚ともいい、好ましくない対象に対する反感や嫌悪の心で、いわゆる怒りや憎しみのことをいいます。そして「無明」というのは、道理に明るくない（暗い）ということ、人生や事物の真相に無知であるということです。この無明は私たちの中での愚癡となつてはたります。愚癡は現代では愚痴と書き、「言っても仕方ないことを言って嘆く」といった意味で使われますが、本来は仏教用語で「愚かで知恵のないこと」をさします。物事や自分自身の眞実のすがたがわからずかない、またわかつていないことすら気づかない、本当に嘆くべきことに気づかない哀れで愚かな様子です。この無明こそ迷いのもととなる根源的な煩惱で、あらゆる煩惱を引き起こしていきます。私たちの無明の闇は如来の光に

よりすでに破られているのですが、われわれは自分が無明であることを素直に受け取れません。「自分が愚かで迷った生き方をしていて」ということを受け入れられない。煩惱があるからです。私たちは聡明な自分というものに執着しています。そして愚かな自分というものを嫌悪しています。そういう貪愛瞋憎の雲が、如来よりいただく眞實の心を覆い隠しています。眞實の心とは、自分は立派な人間であると思っていたが、本当は自分自身のことも全くわかっていない愚かな凡夫でありました、どうなずいていく心ではないでしょうか。親鸞聖人は攝取不捨という言葉で「ものの逃ぐるを追わえとるなり」と解説されています。煩惱の目にさえぎられてはいるわれわれは、如来に背を向けて逃げている存在です。そんな私たちを追いかけておさめ取ってください。それが阿彌陀如来です。空が曇っていても、太陽の明かりの届かない夜とは違い、雲の下には明るさが届いています。如来に背を向け、煩惱の日暮らしをしている私たちですが、そんな私たちだから救われねばならないと、背後からいつも照らし続けてくださる存在が、阿彌陀如来なのです。

※追いかけていっておさめとるの意

正法寺について

お寺に身をおく

目まぐるしく変化していく現代社会においては、
お寺はあまり変化がなくつまらないと感じるかもしれません。
しかし長い歴史の中で受け継がれてきた教えや、
それを伝えてきた場は、変化の著しい社会に身をおく我々にこそ、
大切な何かを教えてくれるのではないのでしょうか。



仏教の教え

私達は必ず「死」にいくいのちを生きています。
その身の事実に目覚め、現在生きている自分の「生」を問うていく。
仏教はいま生きている私に、はたらきかけてくる教えです。



お念仏の道

親鸞聖人が明らかにして下さった「お念仏の教え」は、
阿弥陀如来の大いなる慈悲につつまれて、
何が起こってくるか分からない苦難に満ちた人生を、
明るくたくましく力強く生きていく智慧と力を、
この身にいただいでいく教えです。



届いていく場

そのような仏教の教えが届いていく場が真宗寺院の本堂です。
老若男女問わず皆様が開かれた聞法道場として正法寺があります。
どうぞ様々な紹介などをご覧いただき、
まずはご自分にあった形でお寺にお越しいただけたらと思います。



正法寺住職・坊守

正法寺ホームページ <http://omura-shoboji.jp/>

正法寺 大村

検索

専念山 正法寺
大村市杭出津 2-708
☎ 52-2247

モバイル端末からアクセスする場合は
QRコードをご利用ください

